

事業の背景・目的

日本産トゲネズミ類（オキナワトゲネズミ、アマミトゲネズミ、トクノシマトゲネズミ）は、環境省と日本動物園水族館協会との間で締結された「生物多様性保全の推進に関する基本協定」に基づいた計画により、飼育繁殖技術開発などの生息域外保全活動が行われている。アマミトゲネズミについては技術が確立されつつあるが、遺伝的多様性の保持や繁殖効率の向上、それに必要な飼育スペースの確保が課題である。本事業は、千葉市動物公園がこの保全事業に新規参画し、飼育スペースが不足している他の飼育施設からアマミトゲネズミを受け入れることにより、課題の解決に貢献することを目的としている。

事業の内容

事業① 飼育施設の整備

- ・飼育施設内に新規に扉を設置して脱出防止のための前室を増設するなどの対策を行った。
- ・飼育ケージや巣箱を作製し、調温、湿度機器や、記録媒体を整備した。



整備前



整備後

事業② 飼育研修の実施

- ・アマミトゲネズミの飼育・繁殖実績をもつ施設に職員を派遣して、飼育管理方法について研修を受けることで技術面での整備を行った。
- ・導入個体を引取るために飼育施設に行った際にも飼育管理方法についての助言を受けた。



得られた成果

事業①および②の取り組みの結果、事業への参画が決定し、飼育・繁殖実績のある2施設から令和7年3月にアマミトゲネズミを計5頭受け入れた。このことにより技術をもつ施設での飼育スペースが確保され、事業全体の繁殖の取り組みが促進されることが期待できる。事業終了後も母体となる保全事業の計画に沿って保全活動に取り組み、継続的に飼育施設や技術の充足・拡充を行う。実践的な飼育経験が蓄積された後は、必要に応じてさらに多くの個体を受け入れたり、飼育下個体群の維持のために繁殖に取り組む。また、園内全体の整備事業完了後には、展示スペースを設け、生体展示を通じてより効果的な普及啓発活動にも取り組む計画である。

